



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	中東遠総合医療センター 新棟	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2 /5		ふつう			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.8 /5		ふつう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.9 /5		がんばろう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5 /5		がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		3.2	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①断熱性能の高い躯体構成及び窓材を使用している。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ①</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ②</p> <p>3.2 3.2.1 ③</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④</p> <p>2.2.2 ④</p> <p>2.2.3 ④</p> <p>2.2.4 ④</p> <p>2.2.5 ④</p> <p>2.2.6 ④</p>	<p>① 外皮性能</p> <p>② 昼光利用設備</p> <p>③ 昼光制御</p> <p>④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>④ 主要設備機器の更新必要間隔</p>	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p>	<p>Q-3 1</p> <p>3 3.2</p>	<p>⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>⑥ 敷地内温熱環境の向上</p>	
<p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用している。</p>	<p>LR-1 1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4 4.1</p> <p>4.2</p>	<p>⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>⑩ モニタリング</p> <p>⑩ 運用管理体制</p>	
<p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪給水器具の過半に節水機能のあるものを採用している。</p>	<p>LR-2 1 1.1</p> <p>1.2 1.2.1</p> <p>1.2.2</p> <p>2 2.1</p> <p>2.2</p> <p>2.3</p> <p>2.4</p> <p>2.5</p> <p>2.6</p> <p>3 3.1</p> <p>3.2 3.2.1</p> <p>3.2.2</p> <p>3.2.3</p>	<p>⑪ 節水</p> <p>⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>⑫ 材料使用量の削減</p> <p>⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>⑬ 消火剤</p> <p>⑬ 断熱材</p> <p>⑬ 冷媒</p>	
<p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭高効率な設備機器の採用によるCO2の削減をしている。</p>	<p>LR-3 1</p> <p>2 2.2</p>	<p>⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		3.8	
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯</p> <p>2.1.2 ⑯</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰</p> <p>2.4.2 ⑰</p> <p>2.4.3 ⑰</p> <p>2.4.4 ⑰</p> <p>2.4.5 ⑰</p>	<p>⑯ 耐震性</p> <p>⑯ 免震・制振性能</p> <p>⑰ 空調・換気設備</p> <p>⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>⑰ 電気設備</p> <p>⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>⑰ 通信・情報設備</p>	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		2.9	
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑳階高を確保することで将来の用途変更にも考慮している。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲</p> <p>3.1.2 ⑲</p>	<p>⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>⑲ 階高のゆとり</p> <p>⑲ 空間の形状・自由さ</p>	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p>	<p>Q-3 3 3.1</p>	<p>㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		2.5	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑥生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</p>	<p>Q-3 1</p> <p>2</p> <p>3 3.2</p>	<p>⑥ 生物環境の保全と創出</p> <p>⑥ まちなみ景観への配慮</p> <p>⑥ 敷地内温熱環境の向上</p>	
<p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</p>	<p>LR-2 2 2.5</p> <p>LR-3 2 2.2</p>	<p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築新築(2021年SDGs対応版) 評価版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中東遠総合医療センター 新棟	階数	地上8F
建設地	掛川市長谷1359番地の2 ほか44筆	構造	S造
用途地域	指定なし、法第22条区域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年6月 予定	評価の実施日	2024年8月27日
敷地面積	1,680 m ²	作成者	株式会社 久米設計 高橋 創
建築面積	944 m ²	確認日	
延床面積	3,730 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 81% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 81%

④上記+: 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項

総合	その他
・断熱性の高い材料を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。 これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。	-
Q1 室内環境 ・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	Q3 室外環境(敷地内) -
LR1 エネルギー ・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・OAFフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。
Q2 サービス性能 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。	LR3 敷地外環境 ・高効率な設備機器の採用によりCO ₂ の削減に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される